

# 令和7年度(8年産)ビール大麦生育概況①

農業総合研究センター研究開発部麦類研究室  
調査日：令和7(2025)年12月19日  
(調査基準日12月20日)

- 生育はやや旺盛である。
- 湿害対策として圃場の排水対策を行う。
- 2.5葉期を過ぎたら麦踏みを実施する。

## 1. 播種期～年内の気象概況

宇都宮市の平均気温は、11月(5～30日)が平年より0.1℃高く、12月(1～18日)が平年より0.2℃低かった。降水量は少なく、11月が平年比8%、12月が29%であった。日照時間は、11月が平年比115%、12月が114%であった。

## 2. 播種期～年内の生育概況 農研センター本場(宇都宮市)

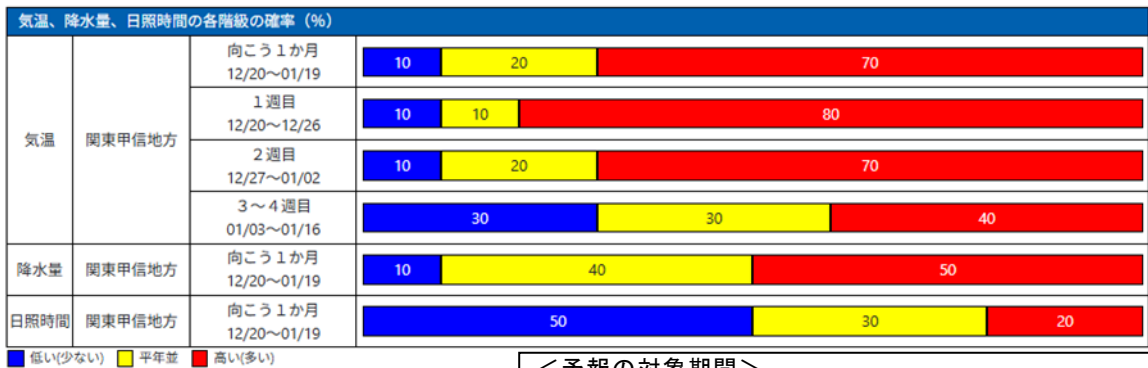
ニューサチホゴールドデン(11/5播種区、平年差-1日)の出芽期は11月14日(平年差-1日)で、出芽日数は9日であった(平年差±0日)。苗立数は平年比109%であった。ニューサチホゴールドデン(11/14播種区、前年差-5日)の出芽期は11月26日(前年差-5日)で、出芽日数は12日であった。

12月19日現在、ニューサチホゴールドデン(11/5播種区)の草丈は平年比90%であるが、茎数は平年比136%、葉齢は平年差+0.3葉、葉色(SPAD)は平年比116%で平年値を上回っていた。

向こう1か月の季節予報によると、気温が高い確率が高く、今後生育はさらに進むと思われる。

## 3. 今後の気象動向(気象庁季節予報 令和7年12月18日発表より引用)

- 平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
- ・向こう1か月の平均気温は、高い確率70%です。
- ・降水量は、多い確率が50%です。
- ・日照時間は、少ない確率が50%です。



### <予報の対象期間>

1か月 : 12月20日(土)～1月19日(月)  
1週目 : 12月20日(土)～12月26日(金)  
2週目 : 12月27日(土)～1月2日(金)  
3～4週目 : 1月3日(土)～1月16日(金)

## 【耕種概要等】

供試品種：ニューサチホゴールデン、シュンライ、さとのそら

調査方法：ほ場調査（出芽期、苗立数、草丈、茎数、葉齢、葉色）

播種期：11月5日（前年11月8日・平年11月6日）、11月14日（前年11月19日、ニューサチホゴールデンのみ）

播種量等：条間22cmのドリル播、播種量226粒/m<sup>2</sup>設定

踏圧：12月2日、12月19日

## 【調査結果】

### 農研センター本場（宇都宮市）における生育概況

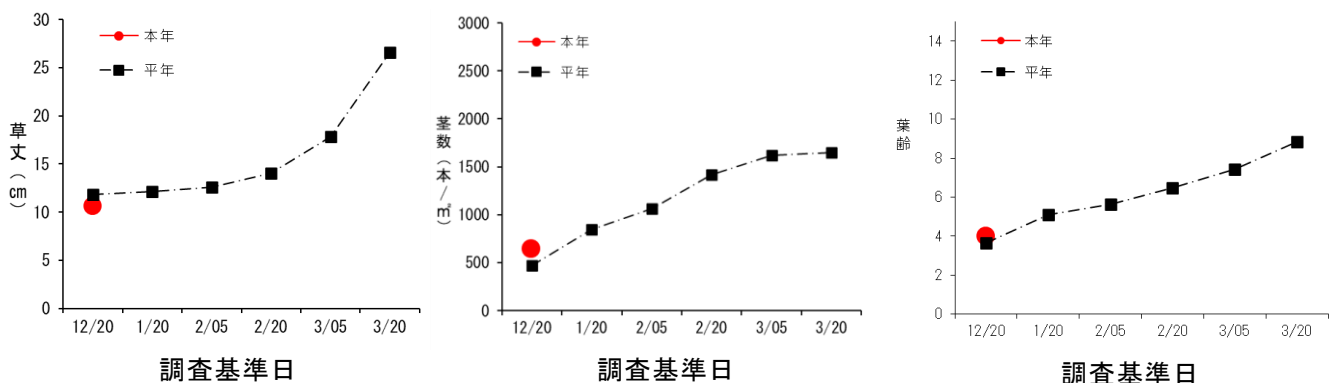
品種名	年度	播種期	出芽期	苗立数 本/m <sup>2</sup>	草丈 cm	茎数 本/m <sup>2</sup>	葉齢	葉色 SPAD	正規化植生 指数 NDVI
ニューサチホ ゴールデン (11/5播種区)	本年	11/5	11/14	207	10.6	643	4.0	37.9	0.46
	前年	11/8	11/17	213	13.0	705	3.7	34.0	0.34
	比・差	-3	-3	97%	82%	91%	+0.3	111%	135%
	平年	11/6	11/15	189	11.8	473	3.7	32.6	0.41
	比・差	-1	-1	109%	90%	136%	+0.3	116%	112%
ニューサチホ ゴールデン (11/14播種区)	本年	11/14	11/26	191	8.4	203	2.2	35.4	0.3
	前年	11/19	12/1	218	9.5	220	1.6	29.1	0.2
	比・差	-5	-5	88%	89%	92%	+0.6	121%	135%
	平年	-	-	-	-	-	-	-	-
	比・差	-	-	-	-	-	-	-	-
シュンライ	本年	11/5	11/15	257	8.5	596	3.4	43.8	0.43
	前年	11/8	11/18	263	10.4	572	3.3	37.3	0.36
	比・差	-3	-3	98%	82%	104%	+0.1	117%	119%
	平年	11/7	11/17	255	9.3	373	3.0	39.5	0.39
	比・差	-2	-2	101%	92%	160%	+0.4	111%	112%
さとのそら	本年	11/5	11/15	184	10.8	402	3.7	47.7	0.37
	前年	11/8	11/17	197	13.0	572	3.5	44.4	0.31
	比・差	-3	-2	93%	83%	70%	+0.2	107%	121%
	平年	11/7	11/16	186	12.4	431	3.7	40.4	0.40
	比・差	-2	-1	99%	87%	93%	+0.	118%	93%

注) NDVI：植物体の近赤外域の反射率と赤の反射率から求められ、植生の量や生育の良否を指数化したもの。

注) 小数点以下第2位を四捨五入してあり、実際の差と一致しない場合がある。

※平年値（令和5年度データは播種遅れのため、平均値算出に含めていない）：ニューサチホゴールデン（11/8播種区）は平成25年～令和6年度（11年間）の平均値。その内NDVIは平成29年～令和6年度（7年間）の平均値、ニューサチホゴールデン（11/14播種区）は2年目のため平年値はなし。シュンライ、さとのそらは令和元年～令和6年度（5年間）の平均値。

### ○草丈、茎数、葉齢の推移（ニューサチホゴールデン）



### 【今後の管理】

向こう1か月の降水量は多いことが予想され、早期に明きよの整備を行う事が望ましい。整備のポイントとしては、①明きよの出口は排水溝に接続されていてきちんと排水されるか、②溝が土や泥等で埋まっていないか(埋まっていたらさう)、である。ほ場周縁部に排水溝がない場合は、明きよを深く掘るなど確実に対策を行う。

このような排水対策の実施は、降雨・降雪後のほ場の乾燥を促すため、素早く踏圧を行うことが可能になる。

踏圧(麦踏み)は、2.5 葉期(写真1参照)を過ぎた頃に1回目を行い、年内に1~2回行う。踏圧の効果は、“分けつを旺盛にする”、“根はりを良くする”や“霜柱による凍上害を防止する”等があり、麦類の良好な生育には必要不可欠の技術である。しかし、ほ場水分が高い状態で踏圧を行うと、土を固めてしまい、生育に悪影響を及ぼすことがある。そのため、踏圧はほ場の水分量に留意して行うことが重要である。

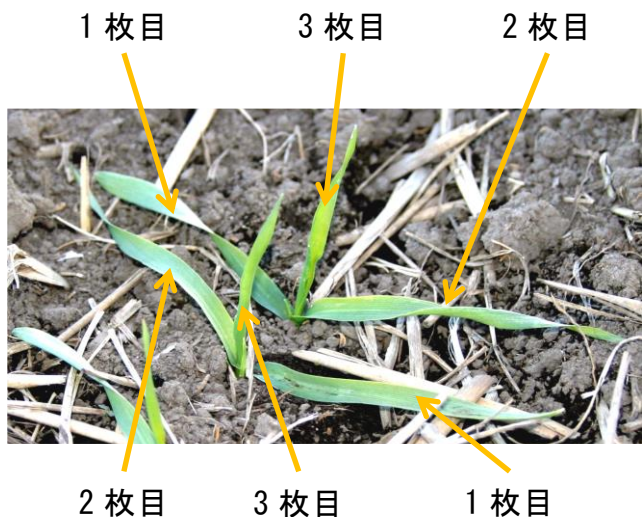


写真1 麦類の葉齢の数え方



写真2 排水溝に接続されている明きよ

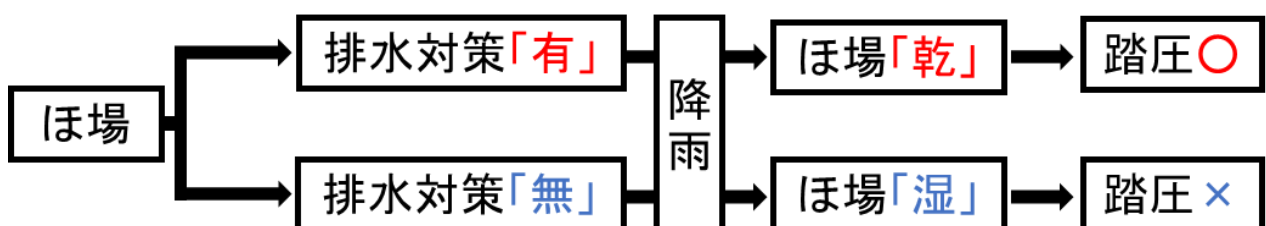
※適切な排水対策により、降雨後でもほ場が乾きやすく、早い時期に踏圧ができる。



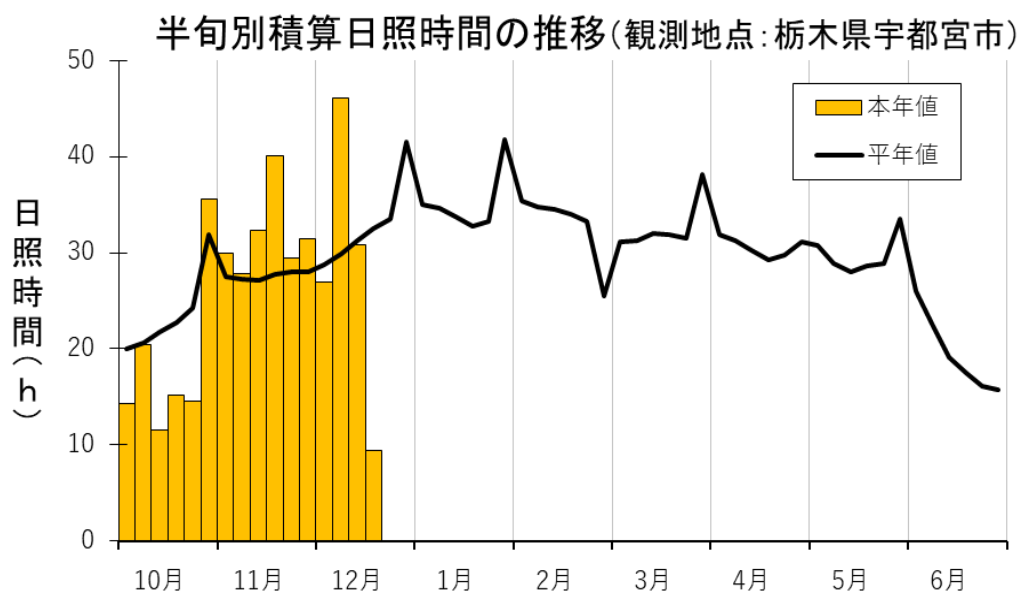
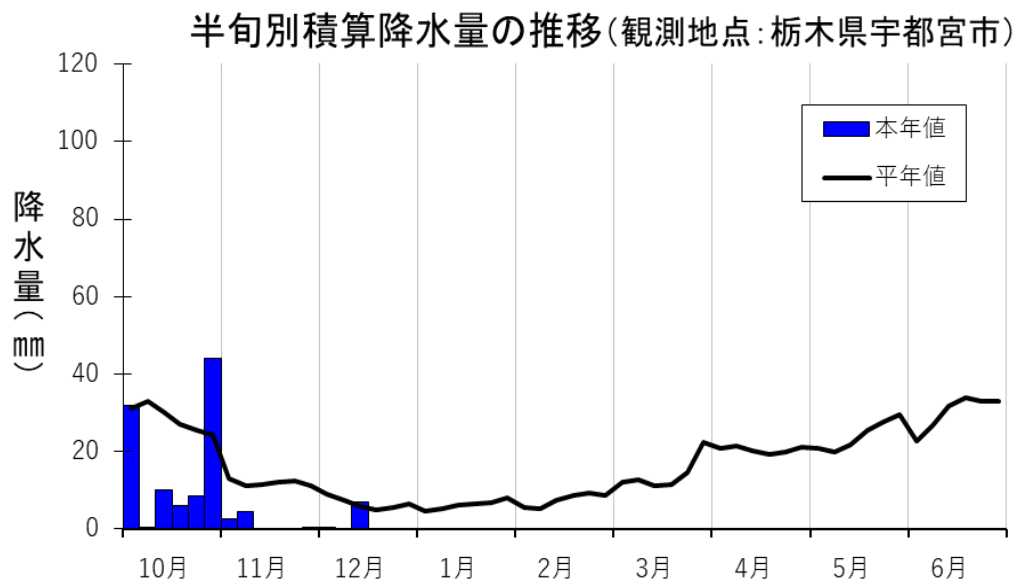
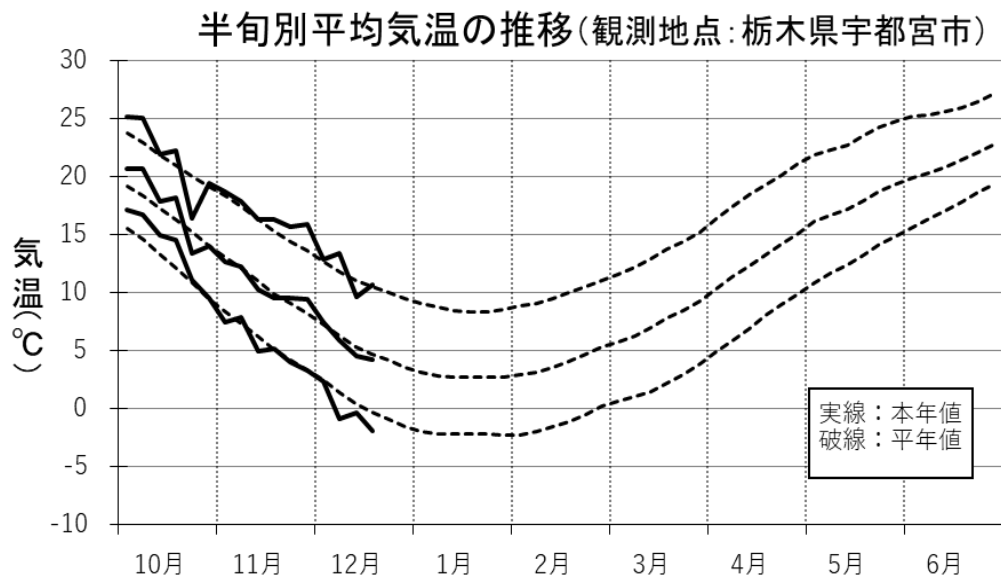
写真3 排水溝に接続されていない明きよ  
雨が溜まってしまっている



写真4 降雨後1日経過、慌てて排水溝に接続している



## 【気象概況】





ニューサチホゴールドン（11/5 播種区） 2025 年 12 月 19 日撮影



ニューサチホゴールドン（11/14 播種区） 2025 年 12 月 19 日撮影



※栃木県農業総合研究センターは設立130周年を迎えました